

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(第1部会)

区分	内容
テーマ・事業名	きらめきサポートプロジェクト 【事業費予算 2,280千円】
事業目的・概要	地域コミュニティの活性化や福祉、防災、文化振興など、様々な地域課題の解決につながる取り組みを地域の団体と協働で実施し、「きらめく秋葉区」に向けたまちづくりを目指す。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>(1)秋葉山地区MTBコース作成(副題:森林保護と活性化) 【秋葉区田家2丁目町内会】 ・秋葉山公園第2キャンプ場の稜線や山腹の樹木を伐採し、その全体にMTBコースを作成・整備する。3カ年計画であるが、今年度はコースの粗伐開がほぼ完了した。今後、整備・試験走行・本格使用を行っていく。 ・7～11月、週1回工事を実施。 ・きらサポとしての全体会合2回、現地立会1回を行った。</p> <p>(2)防災手帳の作成・配布及び活用のための防災講習会等の開催 【新潟市防災士の会秋葉支部】 ・山の手コミ協主催 防災訓練にて防災手帳配布(200部) 開催:11月14日 ・金津コミ協主催 防災訓練にて防災講和と防災手帳配布(158部) 開催:11月15日 ・本町2丁目自治会役員会にて防災講和と防災手帳配布(38部) 開催:11月15日 ・金津コミ協管内の全世帯に防災手帳配布(2,909世帯) 開催:12月24日 ・秋葉区全世帯へ配付(26,910世帯) 配付:2月 等</p> <p>(3)「在郷町小須戸ひな・町屋めぐり」2021 【小須戸コミュニティ協議会】 ・本町通り商店街などの約30店舗のお店にひな飾りを展示。 ・小須戸地域内の幼稚園、保育園、小学校、福祉施設に折り紙の制作を依頼し、うららこすどに吊るし飾りを展示。 ・新津美術館など区バスで回れる場所にひな人形を展示。 ・スタンプラリー、折り紙を使ったひな飾りのワークショップ、フラワーアレンジメント講座、日本酒のワンコイン試飲会、薩摩屋での抹茶サービス等。 ・開催期間:2月1日～3月7日。参加者約1,000名</p> <p>(4)「新津の大庄屋 桂家」の出版 【NPO法人 新津郷土に親しむ会】 ・自治協、区地域総務課、NPOとで3回の打合せ・検討会を行い、進捗状況をチェックした。各回出席者7～8名 ・FMIにいつ、秋葉区区役所だより、あきはくはつものがたりで宣伝。 ・R3年2月13日に「新発田藩越後蒲原の大庄屋桂家」を発売。同日出版記念講演会を開催した。参加者約262名</p> <p>(5)折り紙によるつるしびなの豪華競演 【新津中央コミュニティ協議会】 ・こども園や小・中学校・高齢者施設など34団体からの協力を受けて44基のつるしびなが作成された。 ・開催期間:2月1日～3月7日</p>

<p style="text-align: center;">事業の評価</p> <p>地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など</p>	<p>【評価】</p> <p>(1) 秋葉山地区MTBコース作成(副題: 森林保護と活性化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元及び下越一体等から秋葉山公園を訪れ利用する人々が増え、賑わいが戻り、地域が活性化していくことが期待できる。 ・これまで荒れ放題であった東屋や旧帝石跡地も有効利用できるようになった。 ・当初コース案ではキャンプ場、遊歩道利用者との衝突の危険等の問題があったが、これが生じないようにコースが変更されたことは評価できる。 ・今後、開削された車道脇の危険立木処理、斜面に押し出された土砂の土留工事が必要である。また、コースがゴミの不法投棄場所にならないような対策、秋葉山の豊かな里山の生態系が攪乱されないよう保全対策を講じていく必要がある。 <p>(2) 防災手帳の作成・配布及び活用のための防災講習会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治協、コミ協の意識改革による防災意識の高揚。 ・家族内における防災の見直しと災害時における連絡体制の確立。 ・防災に強い秋葉区の基礎作りの一助を担った。 ・防災手帳を配布するだけでなく、説明会の開催や自主防災組織を活用するなどして、使い方をより詳細に伝えられる体制作りを行う必要があるのではないか。 <p>(3) 「在郷町小須戸ひな・町屋めぐり」2021</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年で4年目となる事業。毎年バージョンアップしての町興し事業になっている。かなり定着して周辺地域にも知れ渡ってきた。そろそろ秋葉区全体の事業として位置づけるべき時期になっているように思う。非常に人気のある町興しとなってきたように思う。区役所としてももっと力を入れて応援する姿勢が欲しいところである。 ・きらサポ事業を提案する団体のほとんどが、決められた45万円という枠内ではか事業をしようとしていない中、小須戸コミ協が自腹を切っても事業を定着させようとしている姿勢はしっかりと評価したい。 <p>(4) 「新津の大庄屋 桂家」の出版</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究成果を書籍にして出版する所期の目標を達成した。 ・一般の関心を喚起し、記念講演会には多数の参加を得るなどの成果があった。 ・今回のこのような事業は、郷土の歴史、文化を発掘し、郷土への愛情と誇りを育み、今後のまちづくりに結び付けていく契機になり得ると思われる。 <p>(5) 折り紙によるつるしびなの豪華競演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業概要の目的・内容に記載された新津商店街の参加協力が得られなかったことが残念だった。昨年からの継続で行われる吊るし雛は参加団体、展示への集客においても予想を上回る成果をあげた。 ・吊るしびなは折り紙で作るため、年齢や性別に関係なく多くの区民が参加できる点と自由に工夫を凝らして創作できる点が良く、参加者からも喜ばれている。また、吊るしびなが飾られた会場は華やかで、開催期間中は来場者も多く、皆さん楽しそうな笑顔で作品に見入っていた。 <p>【課題等(全体)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員のみではなく、子どもから大人まで様々な職業の人、秋葉区にいる様々な立場の方たちが、ざっくばらんに話をする会などをすると面白いのではないかな。 ・防災や秋葉山活用など、これまでとは違う事業が立ち上がってよかった。 ・息長く続けていける事業になるといい。SDGsの観点も取り入れて、未来につながる事業を行っていくと良いのではないかな。
<p style="text-align: center;">備考</p>	

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(第2部会)

区 分	内 容
テーマ・事業名	公共交通機関利用促進 【事業費予算 250千円】
事業目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、少子高齢化などから公共交通利用者が減少しているが、誰もが利用しやすい持続可能な交通環境の実現を目指す。 ・区内の公共交通機関の利用促進を図るため、区バス及び区内を運行する路線バスのルート・ダイヤを掲載したガイドを作成、発行する。 また、バスと電車の乗換利用促進のため、新津駅を発着する電車の時刻表も併せて掲載する。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ・「秋葉区生活交通改善プラン」に基づき、地域の移動手段を検討する体制を立ち上げることとしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、部会員以外を集めた会議を開催することが難しかったため、これまでに区内外で実施されたアンケートを参考にしながら、地域の実態や課題を分析するための調査項目及び地域の実情や課題をどのように把握するかを部会で検討を進めてきた。 6月 今年度の計画策定 7月 部会で取り組む施策の検討 8月 これまで区内外で実施したアンケート調査を参考に検討 9月 適切な移動手段の検討 10月・11月 アンケート内容、対象地域、対象者を検討 ・「秋葉区公共交通ガイド」、「秋葉区・区バス時刻表」(カードサイズ)の作成
事業の評価 地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に実施されたアンケート調査は、多方面からの調査内容であった。理想とのギャップが明確になったが、検討資料として良かった。 また、全世帯対象のアンケートでは、自家用車利用者の割合が多く、高齢者などの交通弱者の実態がよく分からなかった。そのため、「生活の足」に困る高齢者を主とした移動実態と交通手段について把握したうえで、適切な移動手段を検討することとし、調査内容の設定を進めた。 ・急速に高齢化が進むなか、誰もが利用しやすい交通環境が実現することは最も理想とするところだが、移動に不便がない地域もあれば、公共交通空白地域もあり、委員それぞれの地域によって交通問題に差があり、部会内で統一した問題点集約が難しく、協議に行き詰まることも多々あったが、各委員の認識の違いを超えて共通理解に至ったことは成果だと思う。 ・移動の目的を「通院」と「買い物」に絞って検討を進めることとしたが、移動の目的は10年前と変わらないと思う。変化したことは、もっと進んだ高齢化、一人暮らしの増加、買い物環境の変化などが挙げられるが、部会員の4割が民生委員だったことで、困っている方の様子を知ることができ、方向性がみえてきた。

	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や移動手段を持たない者が、住み慣れた地域で安心して暮らせるための生活交通を構築するため、地域の特性や住民のニーズにあった移動手段と運用方法をしっかりと見極める必要がある。 ・高齢者を含む地域住民の「生活の足」をどう確保するかは地域の大きな課題であり、今後、移動実態を踏まえたアンケート調査や聞き取りなどにより、適切な移動手段を検討したい。 ・「運転免許証を返納したら困る」という声は多いが、今、支援が必要な人は、家族や地縁、友人等の助けで何とかしのいでいるが、「運転免許証を返納したら困る」と言った人たちが必要となったときにバスが無いという事態は避けたい。アンケート調査を実施することで、「大切な生活の足」のすそ野が広がっていくことを期待したい。 ・生活交通の改善は大きな課題であり、次年度も継続して、生活交通を求める地域や住民を対象としたアンケート調査やワークショップを実施し、地域と共に改善策を協議していく。
<p style="text-align: center;">備考</p>	

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(第2部会)

区 分	内 容
テーマ・事業名	地域と福祉施設の連携づくり 【事業費予算 100千円】
事業目的・概要	区自治協議会が、地域との連携を求めている福祉施設と地域のつなぎ役となり、情報交換・意見交換できる場を設けることで、災害時に顔が見え、協力し合える関係づくりを目指す。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>○現状についての情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時における相互連携協定を既に福祉施設と締結しているコミュニティ協議会があること及び地域の防災訓練に福祉施設の職員が、また、福祉施設の防災訓練に地域の役員が参加している事例があることが確認できた。 いずれも、より具体的で有効なものとするための検討が課題となっている。 ・秋葉区社会福祉協議会では、区内の福祉施設を運営する社会福祉法人の連絡会を組織することにており、その中で、地域との交流・連携の実態や今後の意向・課題等についても把握する予定であることが確認できた。 <p>ただ、現在、福祉施設は新型コロナウイルス感染防止の対応が優先となっており、進展が難しい状態となっている。</p>
事業の評価 地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、情報収集が十分行うことが出来なかった。</p> <p>福祉施設の種別や立地により、災害時の対応が違うなど、施設側の状況・要望も確認する必要がある。</p> <p>福祉施設との交流や会合が難しい状況ではあるが、今後、地域での検討状況や秋葉区社会福祉協議会で予定している情報収集がまとまった段階で、区自治協議会を通じて地域へ情報提供することとし、各地域での新しい取組みへの参考にしてもらい、助け合いの仕組みづくりと意識の醸成を図っていきたい。</p> <p>また、新潟市防災士の会秋葉支部が防災手帳を作成し、活動していることも併せて紹介し、連携していきたい。</p>
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(第3部会)

区 分	内 容
テーマ・事業名	あきは子ども大学 【事業費予算 138 千円】
事業目的・概要	次世代を担う子どもたちに、秋葉区の特色や伝統を継続的に体験してもらい、広く周知することで、地域への愛着や興味関心をさらに高めるとともに、未来につながる主体的な学びの機会となるよう実施する。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	対象児童 秋葉区内の小学生(R1年度後期参加者) ●金津焼陶芸体験と新津工業高等学校見学 ・日 時 11月28日(土) 13:30~16:30 ・会 場 新津地域学園 R1年度後期参加決定者25名のうち15名参加
事業の評価 地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など	<p>【 評 価 】</p> <p>○コロナ禍の中、十分な対策を講じて実施できたことは実りが大きい。次回のイベントを考える際の大きな参考となる。</p> <p>○地域資源を活かした活動は子どもたちにとって秋葉区を知ることができる良い企画だった。普段見ることができない、工業高校の見学によりモノづくりに関する興味がわいたと感じる。秋葉区の宝は場所だけでなく、押味さんのような焼き物を作る職人であったり、高校の名物教頭であったりする。子どもたちにとってステキな人として心に残ったのではないかと、地域に戻ってくる子どもたちのためにも、このような機会は続けるべき。</p> <p>○秋葉区内にある高校との連携により、高校側と児童とのかかわり、自治協委員と高校教員とのかかわりが生まれた。学校を超えての地域学習に、また、コロナ禍にあつての事業に参加していただいた児童と保護者に敬意を表したい。</p> <p>○陶芸体験や学校見学を体験・見聞したことで、創造する事への興味を呼び起こせたことは大きな成果であった。2年間にわたり、日常的に体験することができない内容・企画が多く、「こども大学」の意義深さを再認識した。</p> <p>【今後への提案】</p> <p>○ねらいにある、「子どもの主体性を育む」ためには、子ども自身を企画委員に加えてプログラムを作る方法や事業と連携したい地域の団体・企業を公募することもあってよい。</p> <p>○小学校・中学校・高校での総合的な学習の時間等と連携していくこともできるのではないかと。</p> <p>○職業教育を主とする高等学校の存在意義を参加した児童たちの目の輝きと彼等の感想文から再認識させられた。これからの進路決定に向けた中学生や教師への学校側からの情報発信の方策等を行政側も一緒になって考える必要があるのではないかと。</p>

	<p>【 課 題 】</p> <p>○今後も、コロナ禍でのイベント開催になるため感染拡大防止とセットで取り組んでいかなくてはならない。</p> <p>○ねらい通りの年齢層を集めることは非常に難しいことだと今回のこども大学でも痛感した。年齢層を決めて募集、また男女ともに参加してもらえるような企画内容を考えていかなくてはならない。</p> <p>○子ども大学は終了となったが、来年度は大人大学に引き継がれ秋葉区の良さを全区民に発信していけるとよい。</p>
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(広報部会)

区 分	内 容
テーマ・事業名	コミュニティFMを活用した秋葉区自治協議会PR事業 【事業費予算 879千円】
事業目的・概要	秋葉区ならではの取り組みとして、秋葉区のコミュニティFMを活用し、自治協議会の活動や自治協議会かわら版「あきはくはつものがたり」のPRを行う。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ■FM版「あきはくはつものがたり」 毎月第2水曜日の12時20分から30分番組の放送 (再放送は同じ週の土曜日9時から) ■スポットCMの放送 8～3月: 合計放送本数306本 ■かわら版「あきはくはつものがたり」を活用したPR 2号/年(運営事業費) 第25号: R2.8.16発行、第26号: R3.3.21発行 各号約22,000部発行し、新聞折込及び個別配送の他、公共施設等に配置
事業の評価 地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など	<ul style="list-style-type: none"> ■コミュニティFMを活用 【評価】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域密着のコミュニティ放送は、地域の抱える課題を区民の声として伝え協働の要として、地域の町づくりや、より良い暮らしを目指す有効な広報手段である。 ・自治協の各部会員に出演を依頼し、各部の提案事業の紹介や実施報告を行ってもらったことは、どんなメンバーが、どのような活動をしているのかについて、区民の関心を高めることに繋がった。 ・コミュニティFMと「かわら版」とで、それぞれに番組や記事をPRしあったことで相乗効果があった。 ・本会議の中で行政から報告される事項をセレクトし、出演する委員が話題をいち早くお知らせすることで、区民に本会議の様子を発信する事が出来た。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ドライバーと聴取状況については深い関わりがあるので、更に聴取率を上げるため、スポットCMの中にドライバーへ呼び掛ける工夫が必要である。 ・関心を持っている年齢層は高いと推察するが、放送時間帯の工夫が必要である

	<p>■かわら版「あきはくはつものがたり」の発行</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今期、コロナの影響で「あきはくはつものがたり」恒例の自治協議会員の集合写真の掲載を見送り夏目区長と金子自治協議会長の特別対談を1面に掲載した。内容も秋葉区の未来を主題とし読み応えのある対談記事となった。 ・自治協活動の実際を確実に広報する媒体であり、自治協を区民に身近に受け止めてもらえ、「区民主動」の意識を醸成している。 ・自治協の活動にかかわったタイムリーな記事が多く、区長と会長のトップ対談の記事に取り上げ、秋葉区の魅力を発信する事が出来た。 ・情報の保存や見直しが容易であることからSNSや紙媒体での広報の価値は大きい。 ・各委員から原稿依頼を快く引き受けていただき、編集の上でも大いに助かっている。 ・レイアウトや写真の使用で出来るだけ多くの方に読んでいただけるよう工夫をこらした。 ・事業の報告だけでなく、秋葉区の宝や情報を伝えていきたいと広報部会で話し合った。 <p>【課題等(全体)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの方に読んでいただきたいと思っているが実際の読者数は把握できていない。 ・全く新しい形の編集でないと、読んでもらえないのではないかな。 ・読んで良かったと思えるようなものにしていきたい。 ・自治協議会委員が順番に本会議の様子や区の取組みや課題に対する自治協の考えなどを「かわら版」を利用して、情報発信する事が区民の関心を広げることになる。 ・区内全世帯へ配布されるかわら版の配布方法が新聞折り込みとなった。不便を感じた区民もあったため配布は自治会経由にできないか。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(幸福度調査企画会議)

区 分	内 容
テーマ・事業名	秋葉区民幸福度調査 【事業費予算 1,111千円】
事業目的・概要	秋葉区民の幸福度調査を実施し、秋葉区に住む幸せを数値化して内外に発信するとともに、さらに幸せな区づくりのための課題を明確化する。 秋葉区在住者(中学生以上)を対象にアンケート調査を実施する。調査結果を内外に発信するとともに、幸せを感じられるまちづくりへ向けた課題を明らかにする。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>第1回企画会議 日時: 令和2年12月11日(金) テーマ: 委員各自の幸福観や地域の将来の姿を共有し、調査内容を検討するための共通認識や議論の土台作りを行う。</p> <p>第2回企画会議 日時: 令和3年1月15日(金) テーマ: 幸福度調査の事例を学ぶとともに、調査項目を検討する。</p> <p>第3回企画会議 日時: 令和3年2月12日(金) テーマ: 調査項目案をもとに内容を検討し、調査項目を確定する。</p>
事業の評価 地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、今後の事業等で活用できる調査結果を得ることができないと考え、年度後半からの取り組みとなった。 ・コロナ禍で気分が沈みそうになるなか、前向きに、そして自由に意見を出し合うことができ、密度の濃い時間を持つことができた。 ・設問を考える際、言葉の選択がとても難しかったが、みんなで話し合うことで、バランスの良い表現にできたと思う。 ・「幸福度」は多面にわたっており、また、その満足度も様々に複合的に結びついていることが理解できた。 ・来年度前半に調査を行い、集計・分析結果は区長に報告するとともに自治協議会で共有し、幸せを感じられるまちづくりに向けた事業の企画・提案に反映させていきたい。
備考	